

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名 民政クラブ

代表者名 柴田敏光

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和 7 年 11 月 21 日提出

活動年月日	令和 7年 10月 29日 (水) ~ 10月 29日 (水)	
氏名	柴田敏光・井町圭孝・原紀彦・白井正樹	
用務先 及び 内容	1	用務先 岐阜県大垣市
	10月 29日	内 容 環境SDGsポイントについて
	2	用務先
	月 日	内 容
	3	用務先
	月 日	内 容
	4	用務先
	月 日	内 容
備 考		

視 察 者	柴田 敏光、井町圭孝、原 紀彦、白井 正樹
視 察 日 時	令和7年10月29日(水) 13時30分～15時00分
視 察 先 ・ 概 要	<p>岐阜県大垣市 (R7.9.1 現在) 【人口】 153,547 人 【面積】 206.57km²</p> <p>大垣市は平成18年の合併により、二重飛び地になっている。中心地である大垣地域、東に墨俣地域、南西に上石津地域が位置している。大垣は、木曾川、長良川、揖斐川などの堆積作用によって陸地化が進み、沖積平野が形成された。一帯にできた地下水盆により、自噴水がいたるところで見られ、「水都」と呼ばれている。</p>
視 察 内 容	環境 SDGs ポイントについて
選 定 理 由 (目 的)	大垣市は、環境行動に対しポイントを付与する取り組みを行っている。本市では行っていない取り組みであり今回視察先として選定しました。
岡 崎 市 の 現 状 と 課 題	SDGs の取り組みについて、ごみ排出量の削減など一定の効果が出ている面もあるが、市民の関心を更に上げることが、現状の課題の一つにあります。
視 察 概 要	<p><u>1. 「環境 SDGs ポイント(エコアクションポイント)」について</u></p> <p>市民の皆さんが、環境イベントへの参加や資源循環の取り組みを実践する事で、環境 SDGs ポイント(エコアクションポイント)を受け取り、環境グッズやコンポストなど環境配慮商品と交換することができる。こうした環境行動が循環型社会の推進に寄与し、自発的な環境行動を促進する動機付けになることを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみ等たい肥化推進事業の流れ <div data-bbox="383 1030 1484 1254" data-label="Diagram"> <pre> graph LR A[講演会に参加 (ポイント付与)] --> B[コンポストを 選び実践] B --> C[利用できないたい肥は 市が引き取り (ポイント付与)] C --> D[ご家庭で消費したり 市で活用 (ポイント付与)] E[環境 SDGs ポイント 有料指定ごみ袋や野菜などと交換] --> A </pre> </div> <p>しかしながら、認知度が低く登録者が少なかった。また、ポイント交換アイテム(ごみ袋や、コンポストの割引券など)の種類が少なく、利用者に十分な選択肢を提供できなかったことと、環境行動を基準としたため、他の事業との連携がうまく図れなかった。</p> <p><u>2. エコアクションに対するガキペイポイントの付与について</u></p> <p>環境 SDGs ポイントは昨年度末に終了し、今年度からは、ガキペイポイントを付与している。(ガキペイは令和6年から開始している。)</p> <p>市民の環境行動に対して、ガキペイ(地域通貨)をインセンティブとして提供することで参加意識を高め、循環型社会の形成を促します。さらに、ポイント付与の見直し(1回50ポイント→1回100ポイント)や、地域通貨の利用により地域経済の活性化にも寄与し、エコ活動への参加が経済的価値につながる仕組みを構築します。</p> <p>本制度の周知は、市のwebサイトと広報などで行い、ポイントは二次元コード付きのポイント台紙を配布し、配布日から原則1か月以内に取得していただく方式です。</p> <p>ガキペイポイントは手数料なしで交換(1ポイント=1円)できる。ガキペイポイントにしたことで、登録者は増加しています。</p> <p><u>3. 取り組みを開始した経緯</u></p> <p>令和5年1月からごみ袋の有料化(燃えるゴミと燃えないゴミ)をスタート。ごみの減量化を市民の皆さんと一緒に進めることを考え、市民への動機付けと、環境全般への関心・</p>



活動の支援や、更には自発的な活動となっていくためにも、ポイント付与とした。そのポイントは、地域通貨のように市内で流通するポイントを付与する制度が好ましいと考えました。今後もこのガキペイポイントを利用して活動していく。

3.主な質疑応答

Q 講演会とはどのような開催形態なのか

A 大垣市と連携して活動している「環境市民会議」という市民団体が行っています。
(主に、コンポストを推進しています。)

開催回数は毎月の開催(12回/年)で行っており、1回あたり10~30人程度参加しています。講演会開催の周知は、広報・ホームページを使って募集しています。また講座は初心者コースと経験者コースで分けて実施しています。

Q エコアクションからガキペイポイントへの切り替えはどのように周知したのか

A 広報・ホームページで周知しました。

Q 誰もが参加できる施策の中で、協力者を増やす取り組みや、学校(子ども)への働きかけは何か行ったのか。(主にコンポスト)

A 環境市民会議を通じて学校への出前講座などでコンポストの実演などを行っていたが、コロナの影響で一時止まってしまった。そこからなかなか持ち直すのが難しい状況。現在は、夏休み前に親子講座を開催し、夏休みに段ボールコンポストをやってみようといったテーマで行っています。また、コンポストではないが、エコアクションといった点で、大垣まつりなどの大きなお祭りが年に3回くらいあり、その際にごみ拾いボランティア(クリーン作戦)を通行者に呼びかけ、参加者を募集しています。その時にボランティア証明書を発行しています。特に中学生はその証明書を学校に提出することで、内申に加点されるといった取り組みをしています。結構人気で1,000人/回くらいの参加があります。合わせてガキペイポイントも付与しています。

また、環境の審議会のなかでも子どもへの教育は大変重要と捉えています。来年度の新規事業のなかで何かできないか検討をしていて、例えば、毎年小学生4年生がクリーンセンターを施設見学します。その際に生ごみの減量化を水切りネットで勉強してもらい、そのことをご家庭も持ち帰っていただき、ご家庭で実践・広めていただくとか、宿題で、我が家のごみ減量チャレンジをだし、良いやり方は広報で周知するなど来年度にできないかと思っています。

Q ガキペイポイントを使える店舗は約300店舗とあるが、どのように協力を依頼したのか。また補助金なども出ているのか。

A 市から補助金を出していない。手数料もいただいていない。その代わりに使えるようにしてくださいとしています。また、地元のお店だけでは利用は伸びない。大型のショッピングモールや、ドラッグストアも織り交ぜないと伸びない。3割は地元のお店、7割は大型ショッピングモールなどの案分で利用してもらうように設定しています。また、中広(株)という会社は地元のフリー雑誌を発行している事業者なので、お店のネットワークを持っている。あわせて、地域通貨は聞こえが良く地域貢献と捉えていただく面があり、お店側もやろうかと思っています。

本市への反映

(意見・課題など)



【柴田敏光】

環境と地域経済をまわすという点で、セットとした考えである。SDGsポイントをガキペイ（地域ペイ）に移行して大垣市内300店舗のお店で使用できる。

また、小学生から環境を意識付けに取り組んでいる。岡崎市も今以上に環境に対しての取組を見直し推進できるように取り組むことを願う。

【井町圭孝】

大垣市の取り組みとして、環境活動をすることでポイントが得られる仕組みとなっているが、その中で生ゴミの減量化に取り組んでいる活動が斬新であると感じた。貯めたポイントでコンポストの割引券に交換できるが、そのコンポストもダンボール式を環境団体の講演会などで推進し、安価で安易に利用できるコンポストとして人気があるとのこと。そのコンポストで作る堆肥を使って野菜を育てるなど資源の循環化に取り組んでいる。生ゴミの減量に加え、資源を循環することも学べる事業として、素晴らしいと思う。本市の担当部署にも情報を提供したい。

【原紀彦】

環境に配慮した市民の行動を促進するためには、日常の行動変容を「見える化」し、評価・還元する仕組みの導入が有効と考える。大垣市の「おおがき環境SDGsポイント」は、環境行動をポイント化し、地域電子マネーとして市内で利用できるようにすることで、環境負荷の低減と地域経済の循環を同時に実現している点が特徴的である。

また、市民団体との連携によるたい肥化推進など、行政と市民が協働して取り組む資源循環モデルは、市民の主体的な参加を促す好事例である。本市においても、マイボトル利用やごみの分別などの環境行動をポイント化し、地域内で還元できる仕組みを検討することで、環境政策と経済活性化を一体的に推進することが期待される。

【白井正樹】

生ごみ等たい肥か推進事業の流れの中で、市民が生ごみからたい肥を作製し、利用できなかった分は市が引き取る（ポイント付与）取り組みをしているとの事です。私自身の経験から、たい肥を作製しても使い道がなくそのまま捨てていました。結局、捨てるのであれば、たい肥を作製するのが手間に感じ、行わなくなってしまった。大垣市が取り組んでいる、利用できないたい肥を市が引き取ることは、持続可能な取り組みと感じました。本市の活動へ提案・提言をしていきたい。

